



海洋システム科通信 5月号

見えてきた海の豊かさ！



今月も海洋システム科の2年生が、岩手大学と陸前高田市役所と手を組み、広田の海で調査を行った！調査を4月から続けてきたため、少しずつ地元の海の現状や豊かさが見えてきたぞ！

50年後の
未来へつなぐ
(高田松原再生植樹会)



楽しく、安全に！
(海の安全講習会)



海岸の木々は、海を豊かにするだけでなく、海からの強い波や風から私たちを守ってくれる。海洋システム科と普通科の生徒が震災により失われた海岸の松林を再生するために、高田松原を守る会と協力して松を植樹した！松は大人になるまでに50年かかる。50年後、松林が復活し、美しい海や人々を守ってくれることを祈った！

釜石海上保安部から講師の方をお招きし、小型船の安全に関する講習会を実施した。海洋システム科全員で聴講し、船を安全に、そして楽しく運転するために必要な知識や心構えを改めて確認した。

先生の独り言 vol.2 「ニモは息子と“母”の物語!？」



ディズニー映画、「ファインディング・ニモ」は熱帯性の海水魚である、カクレクマノミのマーリンが人間にさらわれた息子のニモを助けるべく、広大な海を冒険する物語だ。この作品には、親子の絆や他の生き物たちとの友情、海的美しさがよく描かれており、他のディズニー映画にはない魅力が詰まっている。ところで、この映画、親子の物語ではあるが、「父」と「息子」の物語ではないかもしれない。カクレクマノミは性転換する魚である。興味深いことに、生まれたてのクマノミは全てオスである。住みかであるイソギンチャクの中で集団生活し、大人になると一番大きなクマノミだけが性転換してメスになる。そして、そのメスが二番目に大きなオスと繁殖するのだ。ここで、映画の冒頭を思い出してほしい。マーリンは妻であるコーラルをオニカマスに食べられてしまい、マーリンに残された家族はニモだけと

なった。つまり、この時点でマーリンは集団で一番大きなオスとなっていたのだ。

しかし、映画を見終わってみれば、マーリンが“父かどうか”は重要でないと感じる。子のために命懸けで冒険するマーリンの姿から、親の愛に、性など関係ないと感じられるからだ。そもそも、世界中の子供に多くの喜びと感動を与えた天下のディズニー映画に、ケチをつけるとは何事だろうか。マーリンの愛情の深さとディズニー映画の偉大さを前に、ケチをつけていた自分自身に嫌気が差した。

**In this story,
the most important things
is “love”, not is “sex”.
Don't forget it!**

